あかしＳＤＧｓ推進審議会（議事要旨）

日　時	２０２１年(令和３年)１０月１７日（日）　15:00～17:00
場　所	パピオスあかし６階こども健康センター
出席者	中野副会長、井上副会長 飯塚委員、伊藤委員、小河委員、河村委員、木戸委員、坂口委員、四方委員、竹内委員、堂本委員、向井委員、森川委員、山下委員、岩村委員、小野委員、川下委員、西野委員、宮川委員、森口委員、雪永委員 ＷＥＢ参加 川島委員、菊井委員
報告・審議事項	(1)　（仮称）あかしＳＤＧｓ推進計画等の策定スケジュールについて (2)　（仮称）あかしＳＤＧｓ前期戦略計画（明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第２期））素案について (3)　（仮称）あかしＳＤＧｓ推進計画（明石市第６次長期総合計画）素案について
配布資料	・ 次第 ・ 資料１　（仮称）あかしＳＤＧｓ推進計画等の策定スケジュールについて ・ 資料２　（仮称）あかしＳＤＧｓ前期戦略計画（明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第２期））素案 ・ 資料３　（仮称）あかしＳＤＧｓ推進計画（明石市第６次長期総合計画）素案
事務局	宮脇副市長、横田政策局長、政策局ＳＤＧｓ推進室

１　開　会

（市長あいさつ）

・あかしＳＤＧｓ推進審議会は、これからの大きな方向性を考える明石市にとって最も重要な審議会である。この審議会は、多様性を意識し、性別や国籍や年齢や障害の有無、程度などを含めて構成されており、幅広い御意見を賜りたいと考えている。

・また、決まったことを追認するのではなく、それぞれの立場からの気づき、考え、ご意見を出来る限り計画に反映するなど、実のある審議会にしたい。

・後日開催する意見交換会でもしっかりと意見を聴かせていただきたい。

・明石市のＳＤＧｓにかける思いは、「いつまでも　すべての人に　やさしいまちをみんなで」に込められた３つのことである。

・１つ目の「いつまでも」は、今だけよければいいという発想ではなく、子どもや孫

たちの代にも持続可能なまちづくりをしていくこと。
・２つ目の「すべての人にやさしいまち」は、誰一人取り残さない、一人ひとりのお困り事にしっかり寄り添えるまちを目指していくこと。
・３つ目の「みんなで」は、官民連携、地域とのパートナーシップでまちづくりをしていくことだ。
・審議会のみなさまへの感謝をお伝えし、冒頭のあいさつとする。

（事務局）
・会長が急遽やむを得ず、用務のため欠席となった。本日の議事進行については、中野副会長にお願いする。

（会長代理）
・会長が欠席のため、本日は私が座長を務める。
・限られた時間ではあるが、できる限り１回は御意見を賜りたい。

２　議　事

【報告事項】

⑴　①（仮称）あかしＳＤＧｓ推進計画等の策定スケジュールについて

※事務局から資料説明（資料１）

（一同了承）

【審議事項】

⑵　①（仮称）あかしＳＤＧｓ前期戦略計画（明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第２期））素案について

※事務局から資料説明（資料２）

（会長代理）
・資料２６ページの体系図のとおり、推進計画には、あるべき姿、まちづくりの方向性、理念・方針を示し、前期戦略計画には、５つの柱、その柱ごとの３つずつ具体的な展開の方向性を示している。また、それぞれの柱には、ＫＰＩを設定している。ＫＰＩは重要な業績の指標である。
・また、第２回目の審議会で、個別計画との関連性を示して欲しいとの意見があったため、関連する個別計画も記載している。
・５つの柱ごとのリード文、主な施策、ＫＰＩついて御意見をいただきたい。

・まずは柱１、「豊かな自然と共生し、暮らしの質を高める」について、何か御意見、ご質問等をお願いする。

（Ａ委員）

・「自然環境の保全の活用」について、テレビの番組で「江戸時代のＳＤＧｓ」を取り上げていた。江戸時代には、要らないものをお金にできる仕組みがあったらしい。
・今はごみを全部処理しているが、例えばそのごみを美術品に加工をして、作品づくりが出来たらと思う。例えば貝殻とかを使ってきれいな明かりを作るなど。みんなで知恵を出し合ったりして、ただ捨てるのではなく、違う価値のあるものを生み出すことが出来るのではないかと思う。

（会長代理）

・ごみを価値のあるものによみがえらせるような仕組み、インセンティブ、得する仕組みがあってもいいのではないかという御意見だ。

（Ｂ委員）

・６ページの体系図について質問したい。
・柱３は、子どもに関することである。循環型社会には、適正な人口バランスが必要である。子どもたちや若年層の人口を増やすことが必要だと思う。そのための施策として、柱３ではちょっと弱いのではないか。

（会長代理）

・適正な循環型社会を作るためには、人口のバランスも重要になる。循環型社会をつくる上で、子どもに関する施策も人口のバランスを含めて考えて行くべきという意見である。
・人口のバランスを取り、循環型社会をどうやってつくるかは難しい問題だ。

（Ｃ委員）

・柱１の展開の方向１「脱炭素社会の実現」について、具体的に市民は何をすれば良いか分からない。市が何かしてくれると期待し、主体的に考えられない市民が多いと思う。
・2030 年までに-46％を達成するためには、市民の意識改革が最も必要だと思う。
・市民からアイデアを募集したり、市役所が誰にも見えるような形で手本を示したりすれば、市民だけでなく、儲けることに敏感な営利企業も真似するはずだ。
・例えば、新庁舎の壁面に太陽光パネルを設置して市役所発電所にし、その電気を利用することの節減効果を広報で発表するのはどうか。

・市役所で発電した電気で電気代を節約できた分で、公用車として電気自動車すれば、ガソリン代が掛からず、ＣＯ２も削減できる。
・また、ガソリン代を節約した分で、明石の特産物などの懸賞付きで市民にアイデア募集することもできる。アイデアを応募することで市民の意識を変えることができる。市民と一緒に実現する方法を考えながら計画を立てることが必要だ。

（会長代理）
・素案に掲載する施策は、行政施策として実施することを書いているので、市民は何をすればいいかイメージが難しい。毎年度、実行計画で具体化されると思うが、行政が実施することが書いてあるだけでは分かりにくいのではないか。
・Ｚ世代と呼ばれる今の若者、大学生などはアプリなどを利用して何でもやる。素案は子どもとかお年寄りに焦点が当たっているが、若者は抜けている。
・例えば他の都市で「イイことぐるぐる」というスマホのアプリがあり、環境にいいことをしたらポイントがもらえ、ポイントは交通関係の運賃とかに交換できてお得感もある。そのような仕組みがあれば若者の行動を誘発できる。
・市民に何をすればいいか分かってもらうことが大切だと思う。

（Ｄ委員）
・７ページの公共交通の利用促進について、市営バスを廃止してから神姫バスと山陽バスが運行している。新型コロナで利用者が減ったこともあり、山陽バスの路線撤退が進んでいる。公共交通の本数を確保しなければ、利用促進は進まない。公共交通路線の撤退への歯止めが重要だ。
・ＥＶ等次世代自動車への転換促進政策についてだが、ＥＶや水素車はハイブリッド車と比較しても 200 万円前後高い。転換促進には補助金等が必要になる。東京都は 100 万円前後の購入調整をしているが、市単位で出来るのか。国、都道府県の施策ではないか。
・９ページ　柱１のＫＰＩを「ごみの排出量」とし、指定袋制の導入等により達成しようとするのは現実的だと思う。

（会長代理）
・公共交通利用促進にはまずインフラを整える必要があるという御意見と、次世代自動車への転換については国、都道府県の施策で、市は関われないのではないかという御意見だ。

（Ｅ委員）
・柱１のＫＰＩは「ごみの排出量」に決定か。前回の審議会では、「温室効果ガスの

削減量」という案もあり、多数決でそちらに決まったはずだ。
・「温室効果ガスの削減量」について、国から具体的な数字が出てきてないとの説明があったが、ＫＰＩから消すのはどうかと思う。

（会長代理）
・前回審議会で、温室効果ガスをＫＰＩにすると決まったのではなく、ごみ排出量１日１人当たりとどちらがいいかということを検討するところまでだったと思う。

（Ｅ委員）
・議事録に、いったん温室効果ガスを目標とするとの記載がある。

（会長代理）
・温室効果ガスは、市民の具体的な取組の効果が表れにくいということで、井上委員からも御意見をいただいた。ＫＰＩは柱１を評価するのに一番妥当なものを選んでいる。

（事務局）
・前回の審議会では、環境・社会・経済と三側面のまちづくりの目標数値として、ごみの排出量と温室効果ガス排出量を検討していただいたと思う。
・今回改めて柱１「豊かな自然と共生し、暮らしの質を高める」のＫＰＩとして、ごみの排出量を示している。今後、いただいた御意見を反映して行きたい。

（会長代理）
・国の具体的な方向性などが、決まってないところもある。今後、調整するということで良いか。

（Ｅ委員）
・目標はあくまでも排出量で、具体的な数字はごみのほうがいいと私も理解している。

（会長代理）
・次に、柱２「笑顔あふれる共生社会（インクルーシブ社会）をつくる」について御意見をいただきたい。

（Ｆ委員）
・柱２「笑顔あふれる共生社会を作る」のＫＰＩは「認知症（オレンジ）サポーター養成者数としているが、「展開の方向」１～３すべてを表すものとして適切ではな

いと思う。
・全ての柱に関連することだが、５つの柱には３つの展開の方向が設定されている。現在、柱にＫＰＩが設定されているが、柱のＫＰＩは「展開の方向」１～３すべてに絡むものを１つ設定するか、３つの「展開の方向」それぞれに設定するべきだと思う。

（会長代理）
・柱２のＫＰＩには少し違和感がある。ＫＰＩを達成できたからといって、柱２全体を評価したことになるのか疑問だ。
・数値目標の設定が難しい中、比較的数値では表しやすいものをＫＰＩとしたのだと思う。
・施策ごとにＫＰＩを設けると、ＫＰＩの重要度を設定する必要があり、さらに柱全体も評価しなければならない。ＫＰＩについては検討の余地がある。

（Ｆ委員）
・ＫＰＩはゴールに向かっての行動指標なので、１つの施策、展開の方向１つに絞るというのは違うと思う。
・柱１で、温室効果ガスとごみの排出量の話があったが、温室効果ガスは展開の方向１で、ごみの排出量は展開の方向２なので、どちらがふさわしいか答えが出ないのではないか。
・数値目標には、市民が数値を参考にして頑張ろうというパターンと、行政側がその数値に向けて施策を展開していくっていうパターンの両方がある。
・市民に分かりやすいものだけが正解ではないと思う。施策として行政側がこの数値に向けての施策を展開していくという意味の数値目標もありだと思う。
・私の意見としては、展開の方向１、２、３にそれぞれＫＰＩを設定するのが分かりやすいと考えている。

（会長代理）
・行政がやったことに対する評価か、市民が頑張ったことの対する評価なのかという御意見だ。

（Ｇ委員）
・11 ページのオレンジサポーターについて、認知症サポーター制度はオレンジサポーターだけではない。シルバーサポーター、ゴールドサポーターについても発表している以上、ここには全て書くべきだ。
・ＫＰＩもオレンジサポーターだけの数値である。認知症安心プロジェクトの説明が

オレンジサポーターについてのみなのも違和感がある。
・新聞では、段階的に講座の内容によって分けることは発信されているが、具体的にどんな支援に関わるかについて発信はなかった。

（事務局）
・オレンジ・シルバー・ゴールドとステップアップすることは認識している。表記については検討する。

（会長代理）
・オレンジと書くと限定されるので、書き方を検討すること。

（Ｇ委員）
・ＫＰＩの記述も合わせて修正をお願いしたい。

（会長代理）
・ほかに柱２に関しての意見はないか。

（Ｈ委員）
・この計画は、「１０年後も持続可能な社会に」ということだが、今元気な人も、10年後に同じ身体の状況とは限らない。
・高齢の人たちや障がいのある人たちも共に、明石は住みやすいまちなのか、どんなまちにしていくのかを、明石に住む人たち、この地を訪れる人たちが抱える問題として、みんなが考える必要がある。そのことは、きっと災害などにも強いまちづくりにつながっていく。
・車いす利用者に限らず、ベビーカーを押すおかあさんたちも段差があると移動に困る。だからエレベーターを必要としている。
・今のままでは 10 年後に大きな問題を社会が抱えようとしている。今現在の少子・高齢社会が抱える様々な問題を自らの事として、インクルーシブ社会の実現に向けて考えてほしい。

（会長代理）
・今健康な方でも 10 年後に何か障害を抱えられることになるかもしれないので、自分事として、将来の明石を考えていかないといけない。買い物、公共交通、ユニバーサル社会は多くの市民に直接関係があることなので、自分事として考えるような計画にして欲しいという御意見だ。

（Ｉ委員）

・「笑顔あふれる共生社会」という言葉は、タイトルとして美しいが、抽象的過ぎるのではないか。

・展開の方向１から３に、障害者が地域で孤立せず、安心して暮らせる施策を入れて欲しい。

・市内には、3,000 人弱ぐらい知的障害の療育手帳所持者がいるが、自立が難しく、母子同居では母の収入に頼っているところがある。

・障害者基礎年金だけでは、とうてい文化的な生活は送れない。知的障害者も住みやすくなるような施策を展開して欲しい。

（会長代理）

・柱２の「笑顔あふれる」というその文言に少し違和感があるという御意見と、施策の中に障害者のことが入ってないので、障害者に対するサポートとか補助とかを10 年間で充実して欲しいという理解で良いか。

（Ｉ委員）

・誤解が無いようにして欲しいが、自立している障害者も多くいる。しかし、知的障害者は自立が難しい現実があるということだ。

（会長代理）

・施策の中に、ジェンダーとかひきこもりとかだけではなく、支援が必要な障害者への支援を入れるべきだというご意見だ。

・ほかに御意見が無いようならば、次の柱３「こどもの育ちをまちのみんなで支える」に入りたい。

（Ｊ委員）

・柱３は、待機児童数がＫＰＩになっている。放課後児童クラブの目標値と現状値はイコールだ。目標値を設定する意味が無いように思う。

・小学校、中学校の少人数学級の数、こども食堂、子どもの居場所の数をＫＰＩにしてはどうか。

（会長代理）

・今のＫＰＩでは、柱３の「こどもの育ちをみんなで支える」とずれがあるので、少人数学級を増やすとか、こども食堂の数とかに変更してはどうかというご意見か。

（Ｊ委員）

・ＫＰＩの現状値と目標値がイコールであることが問題だ。

（会長代理）
・現状値と目標値がイコールだと目標に向かうことが出来ない。こども食堂や少人数学級の数など、現実に即したＫＰＩにするべきだという御意見だ。

（Ｉ委員）
・展開の方向１「安心して子育てができる環境の整備」について、出産前検査で生まれる前から障害があるかどうかが分かるようになり、母親が悩む場面も増えている。「妊娠期からの切れ目のない支援」に母親への心のケアが必要だと思う。
・展開の方向２「一人ひとりに応じた質の高い教育の推進」について、身体障害、視覚障害の場合は、少人数学級やエレベーターなどの設備で普通の学校で学べるが、知的障害への支援はそれだけでは足りない。
・市内小中学校の特別支援学級には、知的障害と自閉と情緒障害のクラスがあり、小学校は 435 人、中学校は 174 人、合計 609 人が在籍している。
・また、稲美町にある兵庫県立いなみ野特別支援学校には、明石から小学部で 51 人、中学部で 43 人、高等部で 98 人、合計 182 人が通っており、その数は在籍者の 80%だ。スクールバスで１時間以上かかる子もいる。市内にも特別支援学校が必要だと思う。

（会長代理）
・２つの御意見は、柱２とも関わる。出産前の検査で障害があると分かった場合に、お母さんが悩まれることへのケア、インクルーシブ教育について、特別支援学校の整備が必要という御意見だ。
・柱３のＫＰＩについては、あらためて御検討いただきたい。

（Ｋ委員）
・良い学校を出て、偉くなることばかりが、学びの目的ではない。子どもの学びには、普段の生活も大事だと思う。子どもと一緒に弁当を作り、食について考えたりすることも必要だ。

（会長代理）
・次に、柱４「安心・安全を支える生活基盤を強化する」に移る。

（Ｌ委員）
・聴覚障害者が両親の支援が必要な状態から自立するためには、手話という言語が不

可欠である。
・安心・安全な生活のためにも、日本語の読み書きに加えて、手話言語の教育を続けて欲しい。
・「多言語的に」という言葉の表記があったが、その中に手話言語も含めて考えて欲しい。

（会長代理）
・今の御意見は柱４の「安全・安心を支える生活基盤を強化する」と柱２の「笑顔あふれる共生社会（インクルーシブ社会）」とも関係がある。
・10 年後、聴覚障害者も、１人で安心・安全に生活できる社会を実現するように、手話言語も含めて、さらに具体的に考えて欲しいという御意見である。
・柱２、柱４のどちらかに関する実行計画で、さらに聴覚障害者に対する施策を考えることをお願いする。

（Ｍ委員）
・私は中途障害で全盲、元警察官だ。
・安全・安心という言葉の耳障りは良いが、例えば信号機を付けたりする安全・安心の施策にはお金が必要であり、予算措置をしっかりして欲しい。
・現在、小学校５校、高校１校の福祉学習で障害者当事者として講演している。10 歳の子どもは 10 年経てば大人になる。小中高を通して、ＳＤＧｓの授業で安心・安全の大切さについて啓発・啓蒙することが必要だ。

（会長代理）
・「安全・安心」という言葉を掲げるだけではなく、予算措置をして、実行可能なように考えて欲しいという切実な御意見だ。
・ＳＤＧｓを小中高の授業に位置づけて認識を深め、その中で「安全・安心」を明石市の将来に向けて、子どもの頃からちゃんと考えられるようにして欲しいとの御意見もあった。
・今後の実行計画の中で、きちんと位置付けて欲しいということだと思う。
・次に、柱５「まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す」に移る。

（Ｎ委員）
・文言的なことだが、展開の方向３　まちの魅力を生かした賑わいの創出について、「賑わいの創出」は抽象的で分かりにくい。
・今後、観光で明石に来る「交流人口」を増やすことを目指すのか、市の人口を増やすことを目指すのかが曖昧だ。

（会長代理）

・交流人口いう一言で表しているが、具体的に何を目指すのかを明示して欲しいという御意見だ。

・上位計画は抽象的にならざるを得ないところがあるが、重要なところは具体的に分かりやすい言葉に置き換えた方が良いと思う。

（Ｈ委員）

・あかしユニバーサルツーリズムセンターは、少子・高齢化社会を見据え、ユニバーサルツーリズムの推進に「ユニバーサル情報紙　びと」を作成し、明石のユニバーサルな情報発信を、市や観光協会と一緒に取り組んでいる。

・20 ページの、展開の方向 3「魅力を生かしたまちの賑わいの創出」に向け、ユニバーサルツーリズムという取組を、“障害者も高齢者も明石のまちを楽しめるように”という視点で、展開している。

・主な施策に示されているなかで、まちの魅力の発信はユニバーサルツーリズムの推進と項目を合わせ、「ユニバーサルツーリズムの推進の視点から、観光協会と連携した明石のまちの魅力の発信」のような形で、同一に進めていただきたい。

（会長代理）

・高齢化が進む 10 年後も、様々な人が楽しめる活力あるまちをつくるために、観光業界とユニバーサルツーリズムがタイアップして取り組むことを記載するという御意見だ。

・ユニバーサルツーリズムを明石市の観光の一つの具体的な方策として位置付けるべきだと思う。

（Ｆ委員）

・柱５のＫＰＩに市内総生産を設定している。市内総生産は、一次産業、二次産業、三次産業の合計値なので、例えば第三次産業だけが伸びて、市内総生産のＫＰＩを達成することもあり得る。それでは、展開の方向の１の「地域産業の振興」とはずれた結果になる。

・一次産業、二次産業、三次産業ごとのＫＰＩ、例えばそれぞれの市内総生産の数値を設定しても良いのではないか。

（会長代理）

・柱５のＫＰＩに市内総生産を設定しているが、一次、二次、三次に分けないと、実際の地域産業の振興を評価することにならないのではないかという御意見か。

（Ｆ委員）

・その通りだ。一次産業はもちろん大事だが、二次産業も明石の町としては重要だと思う。どこが伸びて、どこが伸び悩んでいるかが分かったほうが、施策も打ち出しやすいと思う。

（会長代理）

・市内総生産を目標にすると、何が問題か、何が伸びているのか分からなくなる、ＫＰＩを再考すべきではとの御意見だ。

・それでは柱１から５について、ウェブで参加している委員から御意見はないか。

（Ｏ委員）

・施策展開の柱３　こどもの育ちをまちのみんなで支えるについて、明石市立 28 小学校、13 中学校は、全校で学校運営協議会、コミュニティ・スクールを導入し、すでにまちのみんなでこどもの育ちを支えている。柱３にコミュニティ・スクールをキーワードに加えてはどうか。

（会長代理）

・明石市では、学校運営協議会が、まちのみんなで子どもを支える一つの組織である。柱３の施策に、コミュニティ・スクールというキーワードが入るべきではないかという御意見だ。

（Ｐ委員）

・それぞれのＫＰＩについて、達成しやすい数字を設定したのではなく、設定した背景、客観的な理由があるはずだ。

・「住みやすいまち」の「住みやすい」の定義は何か。2019 年度にアンケートがあったと思うが、住みやすいか否かだけでは根拠の分析は出来ないと思う。

（会長代理）

・ＫＰＩを設定した客観的な理由が分からないというのは確かにあると思う。

・市民が共有できる数値を選んだというのも理由の一つだと思うが、理由を示すべきである。前述の「安全・安心」と同じで「住みやすい」の語感は良いが、「住みやすい」の客観的な定義がはっきりしないので、明確にするべきではないかとの御意見だ。

（Ａ委員）

・柱２に認知症関連の施策には、家族の支援など、認知症になってからのことばかりが記載されている。すべての人が認知症になる前にできることが何なのか知らせていない。
・知識があれば、予防もできるし、認知症を受け入れやすくなる。自分事として考えられるような仕組みを作り、働きかけをしていくべきである。

（会長代理）
・柱２では認知症になってからのサポートが記載されているが、むしろ認知症にならないサポートを強化するべきという御意見だ。

（Ｍ委員）
・柱４に、可能なら「安全・安心」に「快適」という言葉をつけていただきたい。

（会長代理）
・柱４で、「安全・安心」に加えて「快適」というキーワードを入れた方が良いのではないかという御提案だ。

（Ｑ委員）
・柱２のＫＰＩの認知症サポーター養成者数について、現状値の倍以上の 30,000 人が設定されているが、根拠は何か。 また、大幅に増えているが、ＫＰＩを達成できるのか。

（会長代理）
・２倍以上の数値を設定している。サポーターが増えるのは良いが無理が無いかという確認だ。

（事務局）
・オレンジサポーター養成者数は、過去の推移から出したものではない。目標を掲げて取り組む数字である。あくまで目標として設定している。

（Ｑ委員）
・他の自治体での先行例を見て設定しているのか。

（事務局）
・この数字は、他市に倣ったのではなく、人口 30 万人超えた本市独自で、１万人程度サポーターを養成したい、１万人目指して頑張るという数値目標である。

（Ｑ委員）

・23 ページにあるＫＰＩ、あかしＳＤＧｓパートナーズ登録団体数だが、審議会の資料が届くまで、あかしＳＤＧｓパートナーズを知らなかった。そもそも登録して何ができるのか、市民に何のメリットがあるのかが分からない。また、どうやって増やすのか知りたい。

（会長代理）

・今、あかしＳＤＧｓパートナーズの説明に時間は取れない。今後、文書で回答するということで良いか。

（Ｑ委員）

・承知した。

⑵　②（仮称）あかしＳＤＧｓ推進計画（明石市第６次長期総合計画）素案について
※事務局から資料説明（資料３）

（会長代理）

・そろそろ終了時間である。21 日以降、市長との意見交換会があるので、そちらで御発言いただくようお願いする。
・いただいた御意見等は、事務局と整理し、次回の審議会の提案資料にできる限り反映したいと思う。

３　閉　会